筋電図データで学ぶデータ処理入門 Python編

第2回シーケンス、制御文

本日のメニュー

- 型の変換
- print関数
- シーケンス
 - 文字列、リスト、タプル、range、ndarray
- ミュータブル・イミュータブル、イテラブル
- 制御文
 - o for, if, while, match
 - ○最大値、積分値

エスケープシーケンス

- ・文字に機能を持たせる
- \ (バックスラッシュ)と文字の組み合わせ
 - タブ文字 \t
 - 改行 \n
- 機能のある文字を文字として扱う

¥ (円記号) と \ (バックスラッシュ)

Windowsの場合

- 同じ文字コード(見た目以外区別がない)
- \を入力すべきところは ¥ を入力

Macの場合

- 別々の文字コード
- '\''を入力する必要があります。日本語キーボードで'\''を入力するにはOptionキーを押しながら'*''を入力して下さい。

1. 型変換 type conversion

- 型キャスト type castingとも
- 暗黙的に行われる場合もある
- 実際は元のオブジェクトから新しいオブジェクトを作成

```
month = input('今は何月ですか?\t') # input()の戻り値は文字列 remain = 12 - int(month) print('今年の残りはあと' + str(remain) + 'ヶ月ですね。') # 結果 今は何月ですか?3 今年の残りはあと9ヶ月ですね。
```

2. print関数の行末

print('abc', end='\n')

- 「end='行末の文字'」で指定
- デファオルとは\n'(改行)
- 特殊文字
 - ∘"改行無し
 - 。 '\n\n' 改行2つ(1行あける)
 - ∘ '\t' タブ文字

位置引数とキーワード引数

- **キーワード引数** end=... のように指定
- 位置引数 キーワードを指定しない
 - 位置(順番)によって意味が決まる
- 位置引数が先、後にキーワード引数
 - キーワード引数は順不同

3. f文字列 f-strings

- ・書式を指定した文字列
- ・文字列に変数の値を埋め込む
 - {変数}が置き換わる
 - 複数の変数を埋め込むことも出来る

f'文字列{変数}' f'文字列{変数a}文字列{変数b}'

3. 有効数字

- 左から0ではない桁からの桁数
- どの程度の桁数を信頼出来るか
- 有効数字の次の桁を四捨五入
 - 有効数字4なら5桁目

```
pi = 3.141592654
print(f'円周率は{pi:#.4g}')
# 結果
3.142
```

シーケンス (型)

順番をもった複数データを扱う型

- 組み込みのシーケンス
 - ∘ リスト list
 - ∘ タプル tuple
 - 。レンジ range
 - 。 文字列
- 外部ライブラリ
 - numpy.ndarray

文字列の例

'python'

順番	文字
0	р
1	У
2	t
3	h
4	0
5	n

順番は0から始まることに注意

4. 文字列とインデックス

• インデックスを指定して1部を取り出す

```
name = 'python'
print(name[2])
print(name[-1])

# 出力
t
n
```

負のインデックスは後から

インデックスの位置

- インデックスは文字と文字の間を示す
- 単独の場合インデックスの右の文字
- 範囲の場合インデックスで挟まれた範囲

	p		У	t	h	0	n
0		1	2	3	4	5	6
-6		-5	-4	-3	-2	-1	

5. スライス

• 範囲を指定して一部を取り出す

```
name = 'python'
print(name[3:5])
print(name[1:5:2]) # <-追加
print(name[:3])
print(name[3:])
print(name[-2:])

# 出力
ho
yh
pyt
hon
on
```

IndexError

• 大きすぎるインデックスはエラー

```
name = 'python'
print(name[10])
```

• スライスはエラーにならない

```
name = 'python'
print(name[4:10])

# 結果
on
```

6. リスト (配列) list

- 複数の値をまとめて扱う
- カンマ区切りの値を角カッコで囲ったもの
- 1つ1つのデータを要素という
- インデックスで要素を取り出せる
- スライスはリストを返す

```
data = [0, 1, 2, 3, 4]
print(data[3])
print(data[:3])

data[3] = 10
print(data)

# 出力
3
[0, 1, 2]
[0, 1, 2, 10, 4]
```

リスト (配列) list

- 型の異なる値も扱える
 - リストも入れられる(入れ子)
- 入れ子の要素
 - ○初めの[]で外側のリストの要素(リスト)を選択
 - 続けて[]で内側のリストの要素を選択

```
num_str = [0, 1, 'python']
data = [[0,1], [2,3]]
print(data[0])
print(data[1][1])

# 出力
[0, 1]
3
```

タプル tuple

- リストとほぼ同じ
- カンマ区切りの値を丸カッコで囲ったものカッコは省略できる

```
data = 0, 1, 2, 3, 4
print(data)
data = (5, 6, 7, 8, 9)
print(data)
print(data[3])
print(data[:3])
# 出力
(0, 1, 2, 3, 4)
(5, 6, 7, 8, 9)
8
(5, 6, 7)
```

6. rangeオブジェクト

• 整数の等差数列を表す

range([start], stop, [step])

- startからはじまり、step間隔で、stop未満の数列
- start、stopは省略可
 - 省略した場合はそれぞれ0、1
- stepは負でも良い

7. シーケンス共通の操作

- インデックスで要素にアクセス
- スライスで要素にアクセス
- x in s
 - 。 xがsに含まれていればTrue
- a + b
 - 。 a の要素に b の要素を後ろに連結
- a * n
 - ◦aの要素をn回足す
- len(a)
 - aの長さ(要素の数)



- 科学技術計算の基本パッケージ
- 主に多次元配列(行列)演算
- 配列同士の演算
- 積分等の計算

7. The N-dimensional array (numpy.ndarray)

- 配列同士の演算が可能
- 要素へのアクセスはリストと同じ

```
a = [1, 2, 3]
b = [3, 2, 1]
c = np.array(a)
d = np.array(b)

print('a + b = ', a + b)
print('c + d = ', c + d)
print('a * 2 = ', a * 2)
print('c * 2 = ', c * 2)
print('dの2番目の要素:', d[1])

# 出力
a + b = [1, 2, 3, 3, 2, 1]
c + d = [4 4 4]
a * 2 = [1, 2, 3, 1, 2, 3]
c * 2 = [2 4 6]
dの2番目の要素: 2
```

7., 8. ndarrayの作成と次元

- np.array(リストまたはタプル)
 - 。引数の内容と同じndarrayを作成
- np.arange([start], stop, [step])
 - ○等差数列を作成
 - startからstep間隔でstop未満まで
 - start、stepは省略した場合、それぞれ0、1
- np.ndarray.shape
 - ○配列の次元を返す
- np.ndarray.ndim
 - ◦配列の次元数を返す
- np.ndarray.reshape(変更後の次元のタプル)
 - ◦配列の次元を変更

8. ndarrayの次元

```
data = np.arange(12)
print(f'dimension number: {data.ndim} \tdimension: {data.shape}')
print(data, end='\n\n')

data = data.reshape((2, 6))
print(f'dimension number: {data.ndim} \tdimension: {data.shape}')
print(data, end='\n\n')

data = data.reshape((3, 2, 2))
print(f'dimension number: {data.ndim} \tdimension: {data.shape}')
print(data)
```

ndarrayの連結

- numpy.vstack(ndarrayのタプル) 縦に重ねる
- numpy.hstack(ndarrayのタプル) 横に繋げる

```
a = np.arange(3)
b = np.arange(3, 6)
print(f'変数a: {a}')
print(f'変数b: {b}', end='\n\n')

v = np.vstack((a, b))
h = np.hstack((a, b))
print(f'vstack:\n{v}\n')
print(f'hstack:\n{h}')
```

```
変数a: [0 1 2]
変数b: [3 4 5]
vstack:
[[0 1 2]
[3 4 5]]
hstack:
[0 1 2 3 4 5]
```

ndarrayの転置

• 転置:行と列を入れ替える

```
data = np.arange(6).reshape((2, 3))
print(f'元のデータ:\n{data}\n')

data_t = data.T
print(f'転置したデータ:\n{data_t}')
```

```
元のデータ:
[[0 1 2]
[3 4 5]]

転置したデータ:
[[0 3]
[1 4]
[2 5]]
```

9. ミュータブル、イミュータブル

- ミュータブル mutable (変更可)
 - o list
 - numpy.ndarray
- イミュータブル immutable (変更不可)
 - o tuple
 - o range
 - str, int, float, etc.

9. 要素の変更

ミュータブルリストの場合

```
numbers = [1, 2, 3, 4, 5]
numbers[2] = 30
print(numbers)
# 結果
[1, 2, 30, 4, 5]
```

イミュータブル(エラーになる)文字列の場合

```
name = 'python'
name[3] = H
print(name)

# 結果
Traceback (most recent call last):
   File "<stdin>", line 1, in <module>
TypeError: 'str' object does not support item assignment
```

イテラブル iterable

- 反復可
 - ○要素を順番に取り出せる
- シーケンスはイテラブル
- 辞書型 dict

制御文

- for
- while
- if
- match (V3.10以降)

10. for文 繰り返し

- 1. in の後のイテラブルから値を1つ取り出して in の前の変数に入れる
- 2. インデントがついた命令を実行する
- 3. for文まで戻り、 in の後のリスト等の次の値を in の前の変数に入れ、繰り返す
- 4. in の後のリスト等の値を全て取り出したら終了
 - : のある行とそれに続くインデントの行を あわせて節 block
 - for文以外でも節は : とインデントの組

```
num = 0
for i in range(0, 11):
    # 文は複数でも良い
    # その場合は、コメントも含めて同じインデントで。
    num += i
    print(num)
```

11. for文 繰り返し

• enumerate()でインデックスと併せて取り出せる

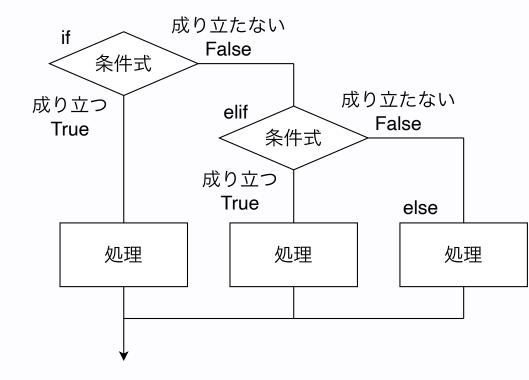
```
# リストの場合
numbers = [10, 11, 12]
for num in numbers:
    print(num)

# インデックスと要素の組
for i, num in enumerate(numbers):
    print(i, num)
```

12. if 比較

- ifの後の条件が
 - 。真なら
 - インデントの付いた命令 を実行、終了
 - 。偽なら
 - 次のelifの条件を判定し、 以下同様
 - elif節はいくつあっても良い
 - 。全て偽なら
 - else:に続くインデントが 付いた命令を実行
- elif、elseは無くても良い

```
num = 3
if num > 3:
    print('3より大きい')
elif num == 3:
    print('3と等しい')
else:
    print('3より小さい')
```



代表的な比較演算子、論理演算子

演算子	意味		
a == b	aがbと等しい		
a != b	aがbと異なる		
a < b	aがbより小さい		
a > b	aがbより大きい		
a <= b	aがb以下		
a >= b	aがb以上		
and	かつ		
or	もしくは		

よくあるエラー

```
num = 0
for i in range(10)
  num += i
```

- SyntaxError構文の間違い
- expected ':'
 - 。 ':' が期待される
- 必要な ':' を忘れた

13. 平均值

• 時間平均の式

$$\overline{e} = rac{1}{t_2 - t_1} \int_{t_1}^{t_2} e(t) dt$$

- デジタルデータの場合の式
 - ○算術平均と同じ
 - 全ての値を合計して、データ数で割る

$$\overline{e} = rac{1}{N} \sum_{n=1}^N e_n$$

13. 平均值

- for文の場合
 - 1. for文で全ての値を足す
 - 2. データの数で割る

```
mean_value = 0
for value in emg:
    mean_value += value
mean_value /= len(emg)
print(f'平均値(for): {mean_value}')
```

13. 平均值

- numpy.ndarray.mean()の場合
 - ndarrayの変数に「.mean()」をつけると 平均が求められる

```
mean_value = emg.mean()
print(f'平均値(numpy): {mean_value}')
```

14. 積分值

- 時間積分の式
 - 横軸に時刻、縦軸に筋電位のグラフの ある時間範囲の面積

$$A=\int_{t_1}^{t_2}e(t)dt$$

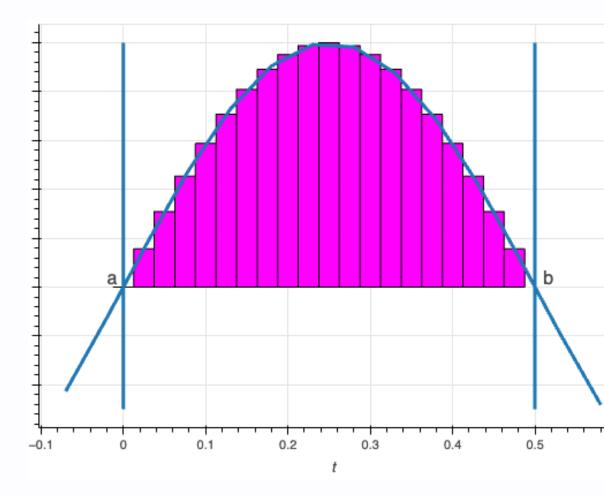
14. 矩形近似

1つのデータにサンプリン グ周期を掛けた面積(矩形 の面積)の合計

$$A=rac{1}{f_s}\sum_{n=1}^N e_n$$

ndarrayの変数に 「.sum()」をつけると合計 が求められる

integral_rect = emg.sum() / FS
print(f'矩形近似: {integral_rect}')





SciPy

• 科学計算のための基本的なアルゴリズム

14. 台形近似

2つのデータとサンプリング周期で 出来る台形の面積の合計

$$A = rac{1}{2f_s} \sum_{n=1}^{N-1} (e_n + e_{n+1})$$

- scipyからintegrate(積分ライブラリ)をインポート
- integrate.trapezoid(データ、dx=サンプリング周期)で 台形近似の積分値が求められる

from scipy import integrate
integral_trapezoid = integrate.trapezoid(emg, dx=1/FS)
print(f'台形近似: {integral_trapezoid}')

15. 最大值

- データの中で最も大きい値
- for文の場合
 - データを一つづつ順番に(for文) 比較して大きい値を保存しておく(if文)

```
max_value = 0
for value in emg:
    if value > max_value:
        max_value = value
print(f'最大値(for文): {max_value}')
```

15. 最大值

- numpy.ndarray.max()の場合
 - ndarrayの変数に「.max()」をつけると 最大値が求められる

```
max_value = emg.max()
print(f'最大値: {max_value}')
```

UIの記述

- Colabのコードセルには幾つかのUIの命令
 - 。#@から始まる Pythonにとってはコメント
 - ∘ #@title セルのタイトル
 - variable = value #@param {type:"型"}
 - 変数へ値を代入する式に続けて記述
 - 型は文字列はstring、数値はnumber
 - ∘#@markdown テキスト
 - o etc.



The fundamental package for scientific computing with Python

https://numpy.org/



SciPy

Fundamental algorithms for scientific computing in Python

https://scipy.org/